

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成18年12月1日(金) 5校時

児童 6年4組 男16名 女14名 計30名

指導者 北上市立江釣子小学校 志藤 修

- 1 単元名 「いのち」について考えよう
- 2 教材名 「海の命」(主教材)、「山のいのち」(副教材)

3 単元について

(1) 児童について

児童は6年生になってから、「カレーライス」では、叙述に即して登場人物の心情に反発したり共感したりしながら読む学習を、「森へ」では、優れた情景描写や説明を読み味わう学習をした。「生き物はつながりの中に」や「平和のとりでを築く」では、説明文の読み方の学習をしてきている。これらの学習を通して、児童には、気持ちの表れている言葉や文章に着目したり、文学的な表現から想像して考えたりしようという態度が育ってきている。

また、国語科「平和のとりでを築く」や社会科の歴史学習、総合的な学習「戦争から平和へのあゆみ」では、平和の大切さや命の尊さ、生命の重さなどを考える活動も行ってきた。

児童がいろいろな場面で書く感想文を読むと、文章から感じたり想像したりする思いは均一的で、豊かな文章表現の一つ一つと向き合い、想像できるまでには至っておらず、最終的に「おもしろいと思った」「すごいと思った」という安易な読み取りに終わる傾向が強い。また、作品全体を通して流れる作者の考えに思いを巡らせ、作品をまるごと味わう読み取りができる児童は少ない。

(2) 教材について

本単元は、主教材として「海の命」を取り上げる。この物語は、漁師の子どもとして生まれた太一の生涯を描いた作品である。太一は、小さいときから父と一緒に漁に出ることを夢見ていたが、ある日、父はクエを捕ろうとして死んでしまう。そのクエを捕ろうと漁師になった太一だが、父を殺したクエと出会ったとき、そのクエを「父」と考え殺さなかった。「自然と人間の共生」が作品の主題である。

また、副教材として同じ立松和平の「山のいのち」を取り上げる。この物語は、イタチの死をきっかけに、ひきこもりの少年静一の心に変化が起きる作品である。静一は、祖父の家に預けられることになった。人里離れたまるで違う環境の中で過ごす祖父。ある日、祖父はヤマベ(ヤマメ)漁に使うイタチの毛皮を手に入れるために、静一の目の前でイタチを殺す。「イタチの肉は、また魚のえさになる」と語る祖父。「全部がぐるぐるとまわっている」と語る祖父。やはり、ここにも「自然と人間の共生」というテーマが流れている。

児童は、「海の命」だけでなく、同じテーマを持った「山のいのち」も読み取ることによって、より深く作者の思いを感じ取ることができる。そして、それは同じ作者が書いた他の作品への興味も深めることにつながっていくと考える。

(3) 指導にあたって

「絵本は、あくまでも絵と文章が一体となり、両者が相互に高め合いながら語られるべきものである。」(学習指導書「作者の言葉」より)という言葉にあるように、単元の導入では、「海のいのち」(ポプラ社)と「山のいのち」(ポプラ社)の絵本を提示しながら、題名読みを取り入れる。また、作品の出会いでは、教師が範読をせず、児童が各自で作品を読む時間を確保する。

「海の命」の読み取りでは、なるべく自分の力で作品の内容をつかみ、作者の伝えたかったことを自分の言葉でまとめさせたい。本単元は、比較的少ない時数での学習となるため、場面ごとの詳細な読み取りはできなくなる。反面、短時間での読み取りのため、作品に出会った新鮮な気持ちを持続させた指導も可能である。そこで、読みの視点を太一の成長に関わった人物の考え方や生き方の読み取りと山場の読み取りに絞って学習を行う。作品構造をとらえる時間では、ワークシートを有効に活用したい。

作品の底を流れるテーマが「命」という児童にとってはとらえにくいと思われるものであるため、次に、同じ作者の「山のいのち」を重ね読みし、比べることで、「命」についての自分の考えを広げ深めていくことができるようにする。また、「山のいのち」の指導にあたっては、「海の命」で培った能力を使って短時間で読み取りができるようにし、さらに技能を定着させたい。

「海の命」と「山のいのち」読み取った後、二つの作品を比べる時間を設定する。この指導では、二つの作品の共通性に目を向けさせ、作品の山場や題名の意味することなどのいくつかの視点についてそれぞれの考えや意見を出し合い、お互いの読みを交流することで、「命」についての自分の考えを広げ深めていくことができるようにする。

単元の最後では、同じ作者の作品で「いのち」という言葉が表題に入った絵本(「田んぼのいのち」「街のいのち」「川のいのち」「木のいのち」)を紹介し、今後の読書活動につなげていくようにしたい。

4 単元の目標と評価規準

	目 標	評 価 規 準
国語への 関心・意欲・態度	登場人物の考え方・生き方や作者の伝えたかったことに興味を持ちながら、物語を読もうとする。	・二つの教材や同一作者の物語を、登場人物の考え方・生き方、「いのち」という視点等を持ちながら読んでいる。
読む能力	表現や叙述と関係付けて、登場人物の心情や考え方・生き方について読み取ることができる。 物語を通じて作者が伝えたかったことについて、自分なりの考え持ち、まとめることができる。	・登場人物の心情を表す表現や叙述に着目して、その人物像について想像し、自分の考えをまとめている。 ・登場人物の言葉や行動、物語の題名の意味や同一作者の物語を比べることによって、「いのち」について自分の考えを持ち、まとめている。
言語についての 知識・理解・技能	物語の展開において重要な言葉や優れた表現や書き表し方に着目し、その効果について気付くことができる。	・物語の展開において重要な言葉や優れた表現や書き表し方に着目し、その効果について考え、自分の読み取りや考えに生かそうとしている。

5 単元の指導計画と評価規準（全12時間）

段階	時間	学 習 活 動	評 価 規 準		
			国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
気づく	1	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの教材の題名を知り、単元の見通しを持つ。 ・新出漢字を練習する。 	<p>作者や作品との出会いをきっかけにして、今後の学習に見通しを持っている。</p> <p>(ノト)</p>		
さぐる	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の命」を読み、感想を書く。 	<p>物語の世界に興味を持ち、自分なりの読みの課題を持って、感想を書いている。</p> <p>(ノト)</p>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の命」の全体構造を読み取り、場面の展開や内容の大体を把握する。 		<p>設定(登場人物・時・場所・場面ごとの出来事)を正しく捉え、ワークシートに整理している。(ワークシート)</p>	<p>物語の展開において重要な言葉に着目し、自分の読み取りに生かそうとしている。(ワークシート)</p>
	4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の命」は太一の成長を描いた作品であることをつかみ、その成長に深く関わった人物の人物像を読み取る。 ・父の海に対する考えを読み取る。 ・与吉じいさの海に対する考えを読み取る。 		<p>表現や叙述と関係付けながら、父の海に対する考えを読み取っている。(ノト)</p>	<p>優れた表現や書き表し方に着目し、自分の読み取りに生かそうとしている。(ノト)</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・太一がクエを殺さなかった理由を考え、太一の子心の移り変わりを読み取る。 		<p>クエをしとめようと考えた太一が、クエを殺さなかった理由を、叙述に即して読み取っている。(ノト)</p>	

	7	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の命」を通して作者が伝えたかったことを考え、自分の言葉でまとめる。 		<p>「海の命」を通して作者が伝えたかったことについて、自分なりにまとめている。 (ノト)</p>	
深める	8	<ul style="list-style-type: none"> ・「山のいのち」を読み感想を交流する。 ・「山のいのち」の全体構造を読み取り、場面の展開や内容の大体を把握する。 	登場人物の行動や考え等について興味を持ちながら読んでいる。 (観察)	設定(登場人物・時・場所・場面ごとの出来事)を正しく捉え、ワークシートに整理している。(ワークシート)	物語の展開において重要な言葉に着目し、自分の読み取りに生かそうとしている。 (ワークシート)
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりだった静一が、イタチの死と祖父の言動をきっかけに、気持ちが変化する部分を読み取る。 		表現や叙述と関係付けながら、静一の気持ちがどのように変化しているかを読み取っている。 (ノト)	優れた表現や書き表し方に着目し、自分の読み取りに生かそうとしている。(ノト)
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・祖父の人物像を読み取る。 		登場人物を通して語られる山の命(自然)に対する作者の考えを、自分なりにまとめている。(ノト)	
広げる	11 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の命」と「山のいのち」を読み比べ、命や自然に対する作者の考えを想像する。 		二つの教材を観点を絞って読み比べ、物語を通じて作者が伝えたかったことについて、自分の考えを持ち、まとめている。	
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・立松和平の命シリーズを紹介し、読書活動へとつなげる。 	作者の考え方に興味を持ち、他の作品を進んで読もうとしている。 (観察)		

6 本時の指導（11 / 12 時間）

（1）目 標

「海の命」と「山のいのち」を比べて読むことにより、二つの作品で作者が伝えたかったことについて自分なりにまとめることができる。

（2）具体の評価規準

規準 観点	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する児童への 手立て
読む 能力	<p>二つの作品を比べ、その共通点にふれながら、作者が伝えたかったことについて、自分の考えをもってまとめている。</p> <p>例)命は大切である。生きているものは、何かの命をいただかなければ生きていけない。だからこそ、いただいた命を無駄なく生かさなければならぬし、その命を自分の中でも生かして、精一杯生きなければならない。</p>	<p>二つの作品の内容や叙述を基に、作者が伝えたかったことについて、自分なりにまとめることができる。</p> <p>例)命は、食べたり食べられたりとむだなくつながっている。とりすぎることなく大切にしていかなければならない。</p>	<p>着目すべき叙述や二つの作品を比べる観点を具体的に示しながら、二つの作品を通じて作者が伝えたかったことを考えさせる。</p>

（3）展 開

段階	学習活動（ 主な発問・期待する児童の反応）	支援（ ）と評価（ ）
導入 5分	<p>1 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>二つの作品で作者が伝えたかったことについて考えよう。</p> </div>	<p>これまでの学習を大まかに振り返り、本時の課題を提示する。</p> <p>二つの作品を比べ、二作品を通して作者が伝えたかったことについて、自分の考えを持ちその考えを具体的に説明できるようにすることが本時のめあてであることを伝える。</p>
展 開 35分	<p>2 「海のいのち」「山のいのち」の共通することを考える。</p> <p>二つの作品を比べて、似ているところはありませんか。</p> <p>・与吉じいさと祖父 ・太一と静一</p> <p>・死 ・成長 等</p> <p>どんなところが似ているのかも考えましょう。</p> <p>・老人たちは、教えている。</p> <p>・みんな自然の中で生きている。</p> <p>・出会った動物は、主人公に影響を与えている。</p>	<p>作品構造を考えた表や、人物関係図などをもとに考えさせる。</p> <p>登場人物に視点を当てる等の補助発問を用意し、児童の考えを引き出す。</p> <p>一つずつ言葉の意味を検討したり、二つの言葉の共通する内容について考えさせたりするようにさせる。</p> <p>イタチの死や人間についても考えさせる</p>

